

第203回 IDT本輪読シリーズ 第8部 第29章

eラーニングとインストラクショナルデザイン

定義 → 理論 → 評価 → HPI → 場面 → 世界 → 職業 → **最新** → 課題

- テクノロジーの変化：
 - 章のタイトル：オンライン学習→分散学習→eラーニング
 - 非同期と同期、対面と遠隔の差が消滅
→ IDの視点の再解釈と、IDerの能力の再定義
- eラーニングを特徴づけるものは機能的アーキテクチャとテクニクス
 - 学習とIDの関係は変わらないが、機能的アーキテクチャの変化に対応が必要。eラーニングの想定外の副産物も。メディアは単なる輸送機関か？
- 機能的アーキテクチャ, 「テクニクス」, 要素的・総合的な学習成果の考え方 → 「構成された経験＝学習」を反映したeラーニング環境
- ID分野の品位を維持するためには, eラーニングが果たす重要な役割を踏まえて, ID領域の基準を確立することが大切。

新分野としての
ID領域の段階

オンライン学習→分散学習→eラーニング

- テクノロジが使いやすさと性能において発達
- それに応じて研究と応用が進化
- 「より限定的でない概念に変更してきた」
- どんな環境であってもIDerのやることは同じ
 - 学習成果を効率的に達成する
 - 創造的かつ堅固な教授設計を整える
 - 開発と制作チームで協力する
 - 実行可能な学習支援システムを管理すること

eラーニングとは何か

- 分散学習

- 学習を可能にするさまざまな手段を使った学習体験

- eラーニング

- テクノロジを含むすべての学習を包括する広義の用語。

- 学習の伝達・受理・フィードバックサイクルにおいて、電子的なテクノロジを含んでいることを意味するだけに。

eラーニングへの収束によって、IDの視点を再解釈し、専門家としてのIDerの能力を再定義する必要が生まれた



IDerの能力の再定義

- IDerの仕事：
 - 意図的な学習成果を得られるように設計する
⇔ eラーニングはインフォーマル・偶発的学習の機会に満ちている
- IDerは、構成主義や状況に埋め込まれた学習のような概念的なアプローチを使って、意図的・非意図的双方の学習を設計すべき？しかし、IDの大学院修了生でさえ、意図的な学習成果の教授分析をするのは難しい。
- 要素的学習の成果に専念することで、学習の分析や評価をより単純で統合的で反復的なアプローチへ進むことが奨励

教育と学習@eラーニング

- eラーニングにおける教育と学習
 - 公式であり意図的なもの、インフォーマルなもの、偶発的なもの
 - eラーニングでは、これらの要素を必要性に応じて、追加・削除・合成することができる。
- ID研究 + eラーニング研究 = eラーニングの威力と使いやすさが向上、従来以上に効率のよい学習ができるようになった。



eラーニング環境のデザイン

- 「構成された経験＝学習」をふまえたeラーニング環境の構築。
 - 学習者 ⇔ 学習した知識を応用する世界
 - 外界へのつながりを円滑にサポートする環境
- eラーニング＝プラットフォームではなく、機能的アーキテクチャの一部。「テクニクス」と組み合わせることで、学習者が知識・スキル・態度を受容したり、できれば自ら構成することを支援する学習環境を設計していく。



機能的アーキテクチャの変化

- 機能的アーキテクチャ
 - テクノロジに対する人間の認知や相互作用の特性や構成要素
- テクノロジの変化→機能的アーキテクチャの変化:それに対応することが必要
- テクノロジが学習経験の質を変える
 - コミュニティの強化
 - 社会的な学習テクノロジー(FacebookやTwitter)

予期されなかった利点

- 構成主義の優れた点
 - 参加者が学習課題を共有して作成していくこと。社会的な活動。
- eラーニングでは、学習者が設計に加わることがある。
 - eラーニングは学習グループの活動プロセス
 - ピアチュータリングや協調型設計
 - 従来の教室にはなかった参加と創造性が、うまく設計されたオンライン環境では当たり前になってきている。



テクニクス(専門的事項)

- テクニクス (technics) : eラーニング技術によって得られるようになった独特な学習の方策 (tactics)
- 教授テクニクス: ある特定の学習成果を得るために設計あるいは選択されたテクノロジーを使う活動または方策
 - キャンパスでの対面講義, コンピュータ支援型研修の学習モジュール, オンラインでのゼミ, 参考ウェブサイト, 電子書籍, DVD, スレッド型掲示板, テレビ会議, ブログ, シミュレーション, パフォーマンス支援システムなど。同期・非同期も。
- これらのテクニクスを用いることで, 学習成果やメディアの認知的に適切な特徴, 学習者のタイプや学習環境そして技術的・組織文化的な制約に基づいて, 教育を概念化したり, 設計したりすることができる。



「テクニクス」とトラック

- メディア輸送機関論(クラーク, 1983)
 - 食料雑貨を配達(=方法)するトラック(=メディア)が私たちの栄養(=学習成果)に変化をもたらさないようにメディアも学生の学業成績に影響を及ぼさない
- 反論(コズマ, 1991)
 - メディアと方法とは、互いに不可欠な関係にある。つまり、両方ともデザインの一部である。特定のデザインの中では、メディアはある方法を可能にし、別の方法を制限する。すなわち、方法はメディアの能力を引き出し、具現化する。
- IDは、学習が発生しうる豊かな環境を作り出すだけかもしれない。
 - よいデザインは、短期間の学習成果において、量的に計ることができる高度に管理された配信方法だけを前提にしない。豊かでよく設計された環境での長期的学習と並びたつことも可能である。



IDer認証制度

- 統一的な専門的職務基準あるいは、IDとeラーニングスキルの認定制度によって、IDの分野が強化され、信用があがる。
 - 設定条件を明確にする→専門学校の教育内容に影響
 - 大学:教育心理学の最新トレンドを追求するためにIDの基礎スキルを軽視しないことを保障
 - 大学や専門家団体の認証評価要件と結びつける
- 現在のIDerが受けた教育の限界:
 - テクノロジーの発展→必要とされる要件が絶えず引き上げられている
 - IDerのための、継続学習部門(continuing education unit; CEU)が必要 → 認定のプロセス+継続教育の承認
- 今はIDerにとって都合が良い時代



新しい分野がたどる儀式的プロセス

- ペルトン(Pelton, 1996)
 - 軽蔑の目で見られる
 - 懐疑的態度で見られる
 - いやいやながらの容認を得る ←今ココ
 - 祝福の儀式(塗油式)に至る
- 塗油式の段階に到達するかどうかは以下にかかっている。
 - IDerの職能や職業的なアイデンティティをさらに堅固にする能力
 - いかに変化に順応していくか

